平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業　実施事例

・鳥取県花き振興協議会（鳥取県）

・協議会構成団体

鳥取花市場生産者協議会、米子地区花卉生産者協議会、全国農業協同組合連合会鳥取県本部、鳥取いなば農業協同組合、鳥取中央農業協同組合、鳥取西部農業協同組合、（株）鳥取花市場、倉吉花き市場（株）、東亜青果（株）、鳥取生花商園芸組合、倉吉花商組合、米子花商協同組合、（一財）鳥取県観光事業団とっとり花回廊、鳥取大学、鳥取県

・主な取組

（１）花育体験の実施（超簡単生け花体験教室）

①取組内容

・鳥取県の将来を担う小学生たちを対象とし、豊かな心・花への関心を育むことを目指すとともに、みんなで協力して生け花を完遂させ「一体感・喜び」を体験することを目的に、超簡単生け花体験教室を実施。

・平成 29 年１月 31 日に倉吉市立河北小学校で行い、６年生 86 名が参加した。また、平成 28 年 10 月の鳥取県中部地震を体験した小学校であることから、震災からの復興応援を含んだ内容で実施した。

体験の様子（テーマ：大地）

・クラスごとにテーマ「大地・絆・大空（※１）」を設定し、竹製の花器に花材を生けた。最後に児童、先生、講師がそれぞれの想いをメッセージとして添えて、作品を完成させた。

（※１）河北小学校の教育モットーである「大地」「大空」と、それらを結びつけ携わっている人の間を取り持つ「絆」の３つをテーマとして設定

②取組による成果、参加者の反応

・児童からは「体験から、人と協力して作品を完成させる楽しさが学べ、花への興味がもっと深まりました。」、「花には植えるだけではなく、生けるという多くの使い道があることがわかりました。」、「鳥取県中部地震からの復興の思いを込めて生け花をしました。この花（作品）を見た人が少しでも元気になってもらえれば。また、花の素晴らしさをもっと多くの人に知ってもらいたいです。」といった感想が聞かれ、花への親しみが深まったことに加え、命あるものに触れる体験、皆で１つのものを作成するという体験から、感謝する気持ちや創造力、協調性が育まれた。

集合写真（テーマ：大空）

③今後の取組の予定

・平成 29 年度も県内小学校（1 校）で開催予定。

平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業　実施事例

（２）花育体験の実施（ハンギングバスケット教室）

①取組内容

体験の様子

・ハンギングバスケットを県内へ広め、花の需要促進及び鳥取県の花き産業の発展に寄与することと、花の装飾技術などを学ぶことを目的に、ハンギングバスケット教室を実施。平成 28 年９月 24 日に鳥取県園芸試験場で行い、県内の２高校から２、３年生７名が参加した。

・「秋深まる」をテーマに、センニチコウやジニアなど 14 種類の花苗の中から、思い思いに花を選び、直径 20 ㎝ほどのスリット式ハンギングバスケットに寄せ植えをした。ハンギングバスケットの特徴や見栄えを良くしたり、長持ちさせたりするコツを学んだ。

・作成したハンギングバスケットは、とっとり花回廊で開催したハンギングバスケットコンテストに出品し、多くの人の目を楽しませた。

②取組による成果、参加者の反応

ハンギングバスケットコンテスト審査会の様子

・ハンギングバスケットを作成し、ハンギングという新たな花の飾り方の提案ができた。参加した生徒からは「大変だったけど、良い経験ができて楽しかった。家でも作って飾ってみたい」という感想が聞かれた。

③今後の課題、取組の予定

・今後は、開催場所を各学校として、より多くの高校生の参加を促す。また、今後このような活動を通じて、将来の花の消費者となる高校生を対象に、花を育てる過程を楽しむことや花と触れ合う機会、花の活用（装飾等）について学ぶ機会を増やす。

平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業　実施事例

・島根の花振興協議会（島根県）

・協議会構成団体

島根県農業協同組合、島根県花き生産者協議会、島根県鉢物生産者協議会、ＪＡしまね斐川花き部会、松江大根島牡丹協議会鉢部会、しまね花商組合、特定非営利活動法人国際交流フラワー21、株式会社ＪＡアグリ島根、島根県

・主な取組

（１）花育体験の実施

①取組内容

・子供の頃から、花きに親しめる環境づくりとともに、花きを通じたコミュニケーションづくりの普及を図るため、園児を中心とした子供を対象に保育園や商業施設等でフラワーアレンジメントなどの体験（計 14 回、体験者 1,114 人）を行った。

②取組による成果、参加者の反応

・当協議会において、平成 26 年度から３年間花育体験を行い、平成 28 年度の体験者数は 1,000 人（1,114 人）を超えた。

・体験を行った子供達は、「自分達が植えた花」として経過を気にしたり、水をあげたりする姿がみられ、花への関心が高まった。

・幼稚園や保育園で行った花育では、子供たちの花への関心が高まったことなどにより、今後も続けたいという要望が多く挙げられた。

文化団体と連携した花育体験

③今後の課題、取組の予定

・地元での生産を知ってもらうことを目的に、県産花きの活用を進めるとともに、花器の用意を体験者等にお願いするなどコストの削減を図り、今後も継続した取り組みとなるよう工夫する。

・こうしたことで、誰もが取り組みやすい花育活動のパッケージング（例：時期、花きの種類、カリキュラム等のマニュアル化）を行い、その普及に努める。

（２）花文化展示会の開催

①取組内容

・島根県産花きをＰＲするとともに消費拡大を啓発するため、島根県産花きを展示した。

②取組による成果、参加者の反応

・２回の花文化展示会を開催し、多くの来場者（1,180 人）へ島根県産花きをＰＲすることができた。

花文化展示会の様子

③今後の課題、取組の予定

・広報媒体を多く利用するとともに会場についても集客力が高い場所で開催し、さらに多くの来場者へ島根県産花きをＰＲし消費拡大を図る。

平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業　実施事例

・岡山県花き消費拡大実行委員会（岡山県）

・協議会構成団体

岡山総合花き株式会社、全国農業協同組合連合会岡山県本部、岡山県花卉農業協同組合、岡山市市場事業部、岡山花き仲卸協同組合、岡山県花卉商業協同組合、岡山県花木園芸商業協同組合、岡山県三栄生花商業協同組合、岡山県

・主な取組

（１）フラワーコンテスト、花文化展示会、シンポジウムの開催

①取組内容

・平成 28 年 10 月 29 日～11 月 6 日に、岡山市内の住宅展示場で花の展示会を開催した（期間来場者 251 組）。

・平成 29 年 1 月 20 日に、（株）大田花き花の生活研究所から講師を招き、「消費者に求められる花を消費動向から分析する」をテーマに、花きの生産・流通・販売に携わる関係者を対象として講演会を行った（来場者 99 名）。

花きの消費拡大に向けた講演会

②取組による成果、参加者の反応

・展示会来場者からは、「室内インテリアに合わせた花のアレンジの参考になった」、「家の中に花がある素晴らしさを体感できた」との意見が多く聞かれ、展示会を通じて、花の魅力をＰＲでき、日常生活に花を飾ることへの意欲を高めることができた。特に、来場者は花きの消費意欲が低い年齢層である子ども連れの若い夫婦が多かったため、将来への花き消費に繋げることができた。

・講演会では、大田市場の購買データ等からこれからトレンドとなる花についての分析を聞くことができ、講演会の参加者からは、「今後の花の生産や販売を検討していくのに非常に参考になった」と好評であった。

③今後の課題、取組の予定

・今後は、飾られた花を「見る」だけではなく、来場者が参加して楽しめる企画（花の香り体験や花とともに写真を撮影できる展示等）を組み合わせて、より多くの人に花の素晴らしさを実感してもらえる取組を行う。

住宅展示場（内観）での花飾りの提案

住宅展示場（外観）での花飾りの提案
（花とともに写真撮影可能）

平成28年度国産花きイノベーション推進事業　実施事例

・広島花きイノベーション事業推進協議会（広島県）

・協議会構成団体

広島県花卉園芸農業協同組合、広島県花き商業協同組合、広島生花出荷協同組合、広島市三友生花卸売商業組合、株式会社花満、株式会社広島県東部花き、株式会社呉生花市場、（一社）日本インドアグリーン協会広島県支部、ＮＰＯ法人日本園芸福祉普及協会、広島県

・主な取組

（１） フラワーコンテスト、花文化展示会、シンポジウムの開催

① 取組内容

平成28年6月21日に花や緑の効果・効用への認識を深めるため、花き業界関係者、一般消費者等を対象にシンポジウムを開催した。講演のほか、花き業界及び園芸福祉関係者等による「花を暮らしに活かす」をテーマとしたパネルディスカッションを実施した。

シンポジウム

② 取組による成果、参加者の反応

シンポジウムの参加人数は183名で、花き業界関係者以外も多く、アンケートでは「花を暮らしに生かすやり方を色々と聞けて、自分の暮らしの中にどう生かしていけるのかなど考えさせられています」「深く知識を深めたいです」「花屋さんに行きたくなりました」といった声が寄せられ、9割以上が「有意義であった」と回答した。

③ 今後の課題

前年度の花活講習会の報告をふまえて議論した結果、講習会だけに終わらせず、施設での継続的な花の活用に向けて、施設職員や花き小売店員の園芸福祉士資格保持者を増やし、互いに連携することが必要である。

（２）花育体験及び福祉園芸体験の実施

①取組内容

平成28年6月～平成29年1月にかけて、幼稚園や介護施設等29カ所で、専用のフラワーアレンジメントキットを用いた作品製作による、脳の活性化及び心身の健康増進を目的とした園芸福祉体験を実施した。

花活講習会

②取組による成果、参加者の反応

体験を通じた脳の活性化、心身への健康増進効果をアピールすることで花きの利用拡大が期待できる。体験者の感想も好評で、「またやりたい」という意見が多かった。

③今後の課題

体験を実施した施設において、継続した取組要望があり、いかに花き関係業者と施設との息の長い取り組みが実施していけるかが課題。

平成28年度国産花きイノベーション推進事業　実施事例

・山口県花き園芸推進協議会（山口県）

・協議会構成団体

山口県農林水産部、山口県花き園芸農業協同組合、全農山口県本部、(株)徳山花市場、(株)山口県中央花市場、(株)下関合同花市場、徳山花卉商組合、やない花のまちづくり振興財団、山口県地域消費者団体連絡協議会

・主な取組

（１）県産花きを活用した山口県いけばな展示

①取組内容

県産花きを活用した県内華道各会派合同のいけばな展示等を開催することにより、県産花きのＰＲによる消費拡大と花きに関する伝統の継承を支援。

・山口県いけばな展
平成28年９月14～19日　開催場所：下関大丸　文化ホール

・いけばな体験教室
平成28年９月14～19日　開催場所：下関大丸　文化ホール

・書といけばな
平成28年11月18～19日　開催場所：山口市民会館ホール

・いけばな常設展示
平成28年６月１～平成29年２月28日

②取組による成果、参加者の反応

・山口県いけばな展･･･昨年より3,000人も多くの来場者があり、県産花きと併せて花きの伝統文化のＰＲ効果が高かった。（来場者5,000人、作品点数100点、出品流派14会派）

・いけばな体験教室･･･多数の参加希望があり、場所、花材が足りず、多くの希望者に断りを入れるほどの盛況ぶりであった。花き伝統の伝承のきっかけ作りとすることができた。（体験者316人）

・書といけばな･･･異なる文化との初のコラボレーション展示会であり、書といけばなに共通のテーマとして「秋」を掲げて作品創作を行った。その結果、それぞれの文化が融合して、新たな雰囲気の作品となった。多様な分野からの注目度が高く、多くの来場者があった。（来場者数1,015人、作品点数31点）

・いけばな常設展示･･･展示作品数：周南総合庁舎40点、山口県庁86点、山口宇部空港43点（各作品は１週間展示、各14会派）

③今後の課題、取組の予定

・昨年に引き続き、様々ないけばなに関する展示を２年連続で実施したことで、来場者が増えて、認知度が高まっていることが示された。書といけばなにおいては、作品集を出版してほしいとの投書があり、日本文化への関心の高さがうかがわれた。関係者以外の一般の見学者が多く、様々な連携による発信力の強化が必要である。

平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業　実施事例

いけばな展

書といけばな

いけばな常設展示

（２）県産花き活用推進プロジェクト

① 取組内容

昨年度までの県産花きの消費拡大に向けた取組成果を活かし、県育成オリジナル品種等を中心とした消費の拡大に向けて、ハロウィン、フラワーバレンタイン等新たな需要の創出にかかる全国的な活動等とも連動し、体験型イベントや講演会を実施した。

また、壁面緑化等新しい飾花（緑化）の在り方を紹介するとともに、飾花体験等を通して省エネルギーや地球温暖化防止と飾花の効果についての啓発活動を実施した。

【場所】やまぐちフラワーランド

○講演会　平成 28 年 6 月～平成 29 年 2 月

講師　①小山内健、②天野麻理絵、③岡本康志、④小黒晃、
⑤小山内健、⑥岡本康志、⑦矢澤秀成　講演回数：７回

参加人数：合計 606 名

○体験イベント

＊壁面緑化植栽体験（花育）：９月 13 日　新庄小学校４年生 44 人

＊やまぐち生まれの花のＰＲ展示

ユリ：５月 28 日～29 日、リンドウ：６月 10 日～19 日

＊花とハロウィンのコラボレーション

国内育種の希少な 126 品種の県産ダリアの展示：10 月 1 日～10 日

ハロウィン向けバラの品種とフラワーアレンジ展示：10 月 8 日～10 日

県産カボチャを使ったハロウィン展示：10 月 1 日～31 日

ランタン作り体験（花育）：10 月 23 日　参加人数 37 名

＊華とXmas～冬を彩る花たち～

山口県秋季花き展最優秀賞（ポンセチア）：12 月 2 日～26 日

○記念日と花贈り

フラワーバレンタインなどの花き業界が仕掛ける新たなイベントに合わせ、県産花きを活用した花贈りイベントを実施し、県産きの消費拡大を図った。

・良い夫婦の日県産花きの寄せ植え飾花展示と飾花体験
11 月 20 日～22 日　250 名

・希少価値のある 300 品種の県産パンジーの展示　1 月 27 日～2 月 22 日

・フラワーバレンタイン県産バラのフラワーギフト作成体験教室
① 2 月 14 日　73 名　②2 月 11 日　18 名

・ウォークラリーで花の知識の習得、寄せ植え体験のフラワーバレンタインの普及啓発　２月 12 日　94 人
・ホワイトデーに贈る山口県旬の花　洋ラン展２月 17 日～19 日
【実施イベント数】13 回
【体験イベント参加人数】合計 516 名
【展示会見学人数】37,882 人(開催月計)前年同期間 37,260 人 622 人増
②取組による成果、参加者の反応
講演会と体験イベント展示会に多数の消費者に参加いただき、県産花きを中心とした花きに関する情報を提供できた。特にフラワーバレンタイン等新しい花の需要に対する取組と連動して県産花きをＰＲできたことは効果的だった。アンケート結果から、フラワーアレンジ等の体験は花の消費意欲の向上に繋がっている。
大学のインターンシップ生と協働したが、今後の消費拡大には、この様な消費者目線の企画が大切である。講演会は、専門的な花きの知識を習得ることができるとともに、同じ講習会に参加した方々で新たな花のネットワークづくりの契機にもなっている。
③今後の課題、取組の予定
フラワーアレンジ体験には、指導者が多数必要となるためコストパフォーマンスが低い。別の効果的な方法の割合を増やす方向で検討する。
山口県では平成 30 年に「全国都市緑化フェア」や「明治維新 150 周年記念」等大きなイベントがある。これらのイベントと連携した活動にも積極的に取組むことにより相乗効果が生まれるのではないか。

（３）　バラ鉢物リサイクル生産実証事業
① 取組内容
鉢物への愛着が強く、再生を望む園芸ファンのニーズを満たすとともに、花という植物への理解を深めることを目的として、バラ鉢物に加えて、アジサイ等新たな品目でのリサイクル生産を実証した。本年度は更に取組のＰＲを充実させ、リサイクルの普及定着を図るとともに、リサイクル栽培技術講習会を一般消費者を対象に開催した。
【役割分担】
回収・配送者：(株)山口県中央花市場　→　養生者：山口県花卉園芸農協
(中司バラ園)
○バラに加えてアジサイのリサイクルを実施
リサイクル生産鉢数　バラ鉢物 1,600 鉢、アジサイ 60 鉢、計 1,660 鉢
○リサイクルの普及定着に向けて、一般消費者を対象とした講習会を開催
講演会実施回数　４回、　参集者(一般消費者)　のべ 780 人
②取組による成果、参加者の反応
小売店や公園等多様な鉢物の回収ルートを確保できたことで、目標を 660 鉢上回る 1,660 鉢のバラとアジサイの鉢物を回収することができた。今回、アジサイにおいても養生により開花することができ、バラ以外の花木類でもリサイクルが可能である目途が立った。

消費者への普及定着に向けて実施した講習会は好評であった。リサイクル栽培が可能であることが一般消費者には認識されておらず、興味深いテーマとなった。質問事項も具体的な剪定方法や資材等の入手先についてが多く、消費者自身の実践へ向けての意欲がうかがわれた。

参加者のほとんどは、リサイクル生産可能であることについて認識がなかった。情報提供することにより意欲的に取り組む意向があることが多数であった。

③今後の課題、取組の予定

アジサイの回収鉢数は 60 鉢程度と少なかった。バラに比べ今年度初めての取組であり、認知度不足によるものと考えられる。

回収された鉢物は、鉢によっては極端な灌水不足等劣悪な環境下にあったものも見受けられ、養生栽培開始後の芽吹きの悪さ等の生育のバラつきに繋がるものがあった。

【コスト計算】

経費項目	積算	金額	備考
労働費	923 時間×715 円	659,945 円	作業の効率化で抑制
原材料費(鉢代)	@50 円×1,660 鉢	83,000 円	
土代	@40 円×1,660 鉢	66,400 円	
諸材料費	@80 円×1,660 鉢	132,800 円	
燃油経費		507,600 円	燃油単価が高騰
配達経費	@150 円×1,660 鉢	249,000 円	
	合計	1,998,745 円	費用/鉢 約 1,200 円

○来年度の取組

本事業では対応しないが、花き生産者や一般消費者がリサイクル栽培に取り組むには、リサイクルに係る知識の普及が不可欠である。今後も継続して講習会等の情報発信に努めていく。

回収した鉢物

農園での講習会

ホテルでの講習会

（4）鉢物トレーリサイクル実証事業

①取組内容

環境に配慮した花き生産の実現と流通コスト低減の両立を目指し、県内生産者が主に使用する出荷トレーについて、幅広いリサイクル活用システムを試行した。

平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業　実施事例

【方法】

山口県内の小売店等で廃棄される出荷トレーを回収し、リサイクル可能なトレーを選別し、生産者が利用数量を調整して分配し、再利用に繋げる。

【役割分担】

・回収者：徳山花き商組合、県花卉農協鉢物部会、(株)徳山花市場
・選別･分配者：県花卉農協鉢物部会、(株)徳山花市場
・トレー集積管理：(株)徳山花市場

②取組による成果、参加者の反応

トレーの回収は、シクラメン出荷トレー回収の取組により認知度が向上したことに加え、10 月から園芸店等でトレーリサイクルに係る啓発用チラシを掲示した結果、回収率が飛躍的に向上した。本年度の取組で、目標に対し 150%となる 15,115c/s をリサイクルできた。

1 ケースあたりのリサイクルに係る経費は 70 円となり、昨年度より 25 円安く、同等製品の新規購入価格 100 円より 30 円安くなった。

リサイクルに対する関係者の意識が高まったことから、本年度の回収目標は達成でき、需要期(出荷盛期)においてもトレーを確保することができた。

【コスト計算】リサイクルしたトレー数 15,115c/s

経費項目	積算	金額	備考
労働費	180 人×３時間×715 円/時間	386,100 円	90 回×2 人
選別作業旅費	180 人×3,300 円	594,000 円	
検討会参加旅費	18 人×3,300	59,400 円	2 回×9 人
廃棄処理	@5,000×5 回	25,000 円	
	合計	1,064,500 円	
リサイクル単価	1,064,500 円÷15,115c/s	70 円/1c/s	

③ 今後の課題、取組の予定

明らかに破損したトレーやプランター等トレー以外の園芸用品廃棄物も多く持ち込まれた。また、トレーの種類も分別されることなく各種混在した状況で集積されるため、リサイクルには多くの労力が掛かる結果となった。

トレーの種類は多いほど出荷の用途は広がるので、来年度は、更なるトレーの効率的な集積に努めるとともに、トレーの分類別集積の徹底に向けて、県産花きの販売店舗において、一般消費者にチラシ等による普及啓発を実施する。併せて、リサイクルできないトレーの処理や廃棄物の持ち込み禁止等の徹底を図る。

分別状況①

分別状況②

分別状況③

分別状況④

平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業　実施事例

・とくしまの花振興協会（徳島県）

・協議会構成団体

JA 全農とくしま、JA 徳島市、JA 東とくしま、JA 板野郡、JA 名西郡、JA アグリあなん、JA かいふ、JA 麻植郡、JA 阿波みよし、徳島県洋ラン生産組合、徳島鉢物洋蘭振興会、阿波洋らん青年倶楽部、(株)徳島共進生花市場、徳島県もうかるブランド推進課

・主な取組

（１）徳島の花文化紹介

①取組内容

・大阪鶴見花き地方卸売市場での「第４回なにわ花まつり」にて「徳島の花」の展示及び産地 PR を行った（平成 28 年７月１日）。

・四国４県から花き生産者、花き市場、フラワーショップ関係者の参加による「四国の花トレードフェア」において、「徳島の花」の PR のため作品を展示した（平成 29 年２月 17 日）。

②取組による成果、参加者の反応

・ケイトウの大型展示やヒオウギの生け込みなどによって、一般的に仏花であるケイトウの新たな利用方法や「徳島の花」の品質の高さを PR することができた。

③今後の課題、取組の予定

・消費拡大のためのイベントを年１回程度開催・参加する。平成 29 年度は１月に新たな取組として花き関係者による花生けバトルを開催予定である。

なにわ花まつりにて
「徳島の花」の展示

（２）花き展示品評会・秀品花き展示

①取組内容

・生産者の技術研鑽や一般消費者への県産花き紹介を目的とした展示品評会を開催した（平成 29 年１月 28 日～１月 29 日）ところ、県産の花き・花木 112 点が出品された。

②取組による成果、参加者の反応

・県内産のみならず、他産地の注目の花など、多彩な花きを一同に展示したことから、より県内産花きに対する知識が深まり、関心を高めることができた。

③今後の課題、取組の予定

・展示会等への来場がきっかけとなり、花きの利用促進が図られるような仕掛けを検討する必要がある。

花き展示品評会

平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業　実施事例

（３）小学校での花育授業

①取組内容

・地域の特産品（オモト（10 月）、シンビジウム（３月））を花材に用い、華道家や花き生産・販売関係者等による生け花授業を県内小学校（２校）で実施した。

シンビジウムの花育授業

②取組による成果、参加者の反応

・花の魅力を感じながら、生産者からも話を聞くことで地域の花き産業について学ぶことができた。

・子供達へのアンケートでは「また花を使った授業をしてみたい」、「もっといろんな地元の花の勉強をしてみたい」という回答が多かった。

・生け花は学校内に展示され、他の学年の子供達にも花を知る機会となった。

③今後の課題、取組の予定

・平成 29 年度も県内小学校（２校）で開催予定。

・学校側の受け入れ体制やクラス間の不公平を取り除くためなど、学校の選定が難しい。

・１学年全体で実施する必要があるが全クラス数や全体人数で実施できないこともある。

平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業　実施事例

・花の里かがわ推進委員会（香川県）

・協議会構成団体

香川大学農学部、香川県花き園芸協会、(株)高松花市場、香川県花卉商業協同組合、JA 香川県、香川県盆栽生産振興協議会、日本フラワーデザイナー協会香川県支部、香川県園芸文化協会、香川県農政水産部など

・主な取組

（１）物流の効率化の検討・実証

①取組内容

輪ギクの年末契約販売において、大型段ボール及び樹脂製通い箱使用による物流コストの削減に取り組んだ。

樹脂製通い箱

②取組による成果

年末出荷時において、大型段ボール及び樹脂製通い箱使用による品質低下はなく、実用性を確認できた。

また、通常は、370 円／箱の出荷経費がかかっているが、樹脂箱については、購入時に 3,000 円／箱必要であることから、約８回の再利用で元が取れる。大型段ボールについては、ロットが少ないと作成経費がかかるが、商品化されれば 25%程度の出荷経費の削減が期待できる。

③今後の課題、取組の予定

通い箱については契約栽培が前提となる。今回、切花品質に問題はなかったが、契約先の花束工場において、大型段ボールについては重量による作業性の低下が問題となった。また年間を通じた実用に向けては、高温期の品質低下の調査が必要である。

（２）フラワーコンテスト、花文化展示会、シンポジウムの開催

①取組内容

「フラワーフェスティバルかがわ」において、花いけバトル団体戦や四国の花展示、園芸教室等を開催した（平成 29 年２月 25 日～２月 26 日）。

花いけバトル団体戦

②取組による成果

県内の花き生産者及び愛好家等を対象にした各種の取組みにより、花き生産技術の研鑽が図られたほか、アンケートの結果から花きの消費が少ない 30 歳以下の若い世代への県産花きに対する理解や消費の機運が高まった。

③今後の取組の予定

花いけバトルについては、花きの魅力を発信し、花きの利用促進を図る新しいイベントの一つと位置づけ、県庁内関係課と連携し、「いけばな」等の花き文化の継承・振興を図る。

（３）花育体験及び福祉園芸体験の実施

①取組内容

花や緑に関する知識の習得や活用体験などの「花育活動」を学校や社会福祉施設において実施した。

・学校（保育所、幼稚園、小学校、高等学校等 29 か所）

実施期間　平成 28 年７月～平成 29 年３月
実施内容　フラワーアレンジメント
参加人数　1,374 名

・社会福祉施設（デイサービス、特別養護老人ホーム等 16 か所）

実施期間　平成 28 年８月～平成 29 年２月
実施内容　フラワーアレンジメント
参加人数　352 名

小学校での花育活動

②取組による成果

花や緑にふれあうことにより、やさしさや美しさを感じる気持ちを育むとともに、県産花きへの理解・関心が深まった。

③今後の課題

アンケート結果から、花や緑に関する知識の習得や豊かな人間性を育む環境づくりや花きの効用を通じた高齢者等の心身の健康増進の効果が確認できた。今後も関係機関と連携し、新規に取り組む学校・施設の掘り起こしを推進する。

（４）盆栽の消毒方法等の確立

①取組内容

輸出向け松盆栽の病害虫対策技術の確立を目指し、展示ほを設置するとともに、盆栽輸出マニュアル（輸出向け盆栽のしおり）を作成した。

②取組による成果

薬剤処理等により効果の高い薬剤や薬害の有無を確認できた。またピートモスを用いたパッキング技術の検証において、処理後の生育状況を確認することができた。

平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業　実施事例

③今後の取組の予定

さらに防除効果を高める薬剤処理や植え込み素材を検討するため、処理後の新芽の伸張等を調査する。

ピートモスを使ったパッキング方法の検証

輸出向け盆栽用のしおり

平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業　実施事例

・花のえひめづくり推進協議会（愛媛県）

・協議会構成団体

愛媛県花き園芸組合連合会、愛媛中央花き農業協同組合、愛媛中央花き商業協同組合、全国農業協同組合連合会愛媛県本部、愛媛県園芸文化協会、（公社）日本フラワーデザイナー協会、愛媛県華道会、愛媛県農林水産研究所、愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課

・主な取組

（１）園芸資材リサイクルシステムの検討・実証

①取組内容

・県産花きの消費拡大を目指して、消費者からの鉢等の回収システムを構築し、平成 28 年７月～平成 29 年２月にかけて実証を行った。

・消費者向けの回収用チラシを作成し、小売店で鉢等を回収し、市場へ集積した後、花鉢等を洗浄し、リサイクルできるよう分別した。

【システムの構成図】

②取組による成果

・廃棄されていた鉢や土が生産者等に再利用され、廃棄処分に係る経費が削減された。また利用促進を図るため啓発チラシを作成し、回収鉢数は昨年度から約４倍に増えた（回収鉢数：1,202 鉢/月）。

花鉢・トレー・用土の回収及びリサイクル後の状況

③今後の課題、取組の予定

・回収システムの更なる普及啓発の推進

・チラシ配布先店舗数および回収花鉢数の増加、リサイクル率の向上

平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業　実施事例

（２）学校・福祉施設等での花育体験推進

①取組内容

・情操教育及び花の消費拡大に向けた取組の一環として、花の魅力と癒やし効果を伝えるため、平成 28 年 7 月～12 月にかけて、県内の小学校 12 校において、フラワーアレンジや生け花の体験教室を行った（総受講者数：1,139 人　アレンジ 11 校、生け花 1 校）。

小学校での花育の様子

②取組による成果、参加者の反応

・普段切り花に接する機会の少ない小学生達へフラワーアレンジメントや生け花の体験を通して花きへの関心度を高めることができた。

・各小学生が作成した作品は、家庭に持ち帰り、家族とのコミュニケーションツールとして役立った。

・フラワーアレンジメント等を体験した小学生からは「また作ってみたい」「楽しかった」との感想があり、講師からは「小学生へ教える良い機会となった」との意見もあり好評価であった。

③今後の課題、取組の予定

・平成 29 年度も引き続き小学生を対象に花育体験を実施する。

・関係団体の連携により、円滑に花育体験教室を実施する。

平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業　実施事例

・新需要開拓マーケティング協議会　花き専門部会（高知県）

・協議会構成団体

株式会社土佐花き園芸市場（卸売業者）、土佐花商組合（県内花き小売店）、公益社団法人日本フラワーデザイナー協会高知県支部（アレンジ花等普及団体）、高知県園芸農業協同組合連合会（生産者、農協）、高知県農業振興部産地・流通支援課

・主な取組

（１）フラワーコンテストの開催（花のある生活提案事業）

①取組内容：花いけバトルとフラワーコンテスト

・「高知のやさい・くだもの・花フェスタ」において、花いけバトルの開催及び高知県産花きを使ったアレンジメント作品展示への人気投票や生活空間を演出した展示を実施した。（開催場所：高知市、開催日：平成 29 年 1 月 21 日～1 月 22 日、入場者：13,170 人、花いけバトル観戦者：約 350 人、アレンジメント作品展示の投票者数：1,809 人）

花いけバトルの開催

高知の花を使った
アレンジメント作品の展示

②取組による成果

・花いけバトルの開催では、緊張感のあるバトル形式で、観客の目の前で高知の花を紹介しながら花を生けることにより、花への関心を喚起するとともに、高知の花の認知度向上につながった。

・「私の生まれた日には、母に、ユリを贈ろうと思う。」をテーマにしたアレンジメント作品の展示や、リビングルームを模した展示で花を装飾することにより、花を身近に感じてもらい、暮らしの中に花を取り入れる活用提案につながった。

③今後の取組の予定

・引き続き、高知県産花きの展示紹介や花いけバトルを展開し、花の魅力を広く県民にＰＲするための工夫をこらし、生活の中に花を取り入れる素晴らしさの提案につなげる。

平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業　実施事例

（２）花文化展示会の開催（県内での「高知の花」展示会事業）

①取組内容：県内での展示会

・商店街約 300ｍに高知の花のオブジェ等を展示し、世界的に高い評価を受けた「グロリオサ」や「ブルースター（オキシペタラム）」、全国で２位の出荷量を誇る「ユリ類」など本県の優れた花きを紹介する展示会を行った。（開催場所：高知市、開催日：平成 28 年 11 月 20 日、来場者：8,800 人、クイズラリー参加者 659 人）

②取組による成果

・商店街にオブジェを点在させてクイズラリー形式で行うことで、来場者の関心を高め、高知の花のことを知ってもらうきっかけにつなげた。また、生産者との連携により情報交流の機会をつくることで、高知県の花をより身近に感じてもらうことにつながった。

ユリ類の展示
（オブジェの前で記念撮影）

③今後の取組の予定

・高知県の秀品花きの生産技術や品種のＰＲ、さまざまなシーンで取り入れてもらうための活用提案を継続して行う。

（３）花文化展示会の開催（花の活用方法提案事業）

〔ブライダルフラワーとしての活用提案〕

①取組内容：プロモーションイベント

・高知の花の展示会に合わせて「ユリ類」や「ブルースター（オキシペタラム）」を主体にブライダルシーンに高知の花を取り入れる提案を行った。(平成 28 年 11 月 20 日)

②取組による成果

・街中に日常とは違うシーンが出現することにより、多くの来場者の目を惹き、高知の花を取り入れたブライダルのイメージを印象付けることができた。また、展示会と合同開催することで、多くの来場者にＰＲすることができ、幅広い層への活用提案につながった。

ブライダルシーンでの
高知の花の活用提案

③今後の取組の予定

・引き続き、流行等も取り入れた活用提案を継続することで、ブライダルフラワーの定番としての位置づけを狙う。

平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業　実施事例

〔ビクトリーブーケとしての活用提案〕

① 組内容：プロモーションイベント

・「第 25 回まんが甲子園」及び「高知龍馬マラソン 2017」で、「グロリオサ」を使った撮影スポットの設置と花冠・ブーケの提案を行い、ビクトリーフラワーにふさわしい花としてＰＲを行った。
（平成 28 年８月６日～８月７日：第 25 回まんが甲子園、平成 29 年２月 19 日：高知龍馬マラソン 2017）

②取組による成果

・撮影スポットとして展示を行い参加者に記念撮影をしてもらうことで、「グロリオサ」が勝利の喜びや達成感とともに参加者の記憶に残され、フェイスブックやツイッター等でもビクトリーフラワーとしての活用が広く発信された。

ビクトリーフラワーの提案
（高知龍馬マラソンでの展示）

③今後の取組の予定

・引き続き、スポーツ大会や文化イベント等で、ビクトリーフラワーにふさわしい花として活用提案を行っていく。

（４）花文化展示会の開催（ウェルカムフラワー展示事業）

①取組内容：県産花きの情報発信

・イベント開催時や年末年始などに、多くの観光客や帰省客が利用する空港と駅で、高知県産花きの展示を行った。（平成 28 年５月～平成 29 年３月、13 回）

②取組による成果、参加者の反応

・来場者から「きれい」、「花があると華やかになっていい」との声や記念撮影などの好意的な反応があり、当該展示の他にも施設管理者が独自で花を飾るなど、花に興味を持っていただくきっかけづくりと公共施設等での花の利用機会の増加につながった。

高知の花でお出迎え
（高知龍馬空港での展示）

③今後の取組の予定

・県内外の利用者が多い空港や駅で、引き続き高知県産花きのＰＲを行っていく。

平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業　実施事例

（５）学校・福祉施設等での花育体験推進

①取組内容：花育体験事業の実施

・県内の小学校を対象に地域の花屋や生産者、市場等の協力を得ながらフラワーアレンジメントの体験教室、花壇への植込み体験、産地紹介等の授業を実施した。（開催時期：平成 28 年６月～平成 28 年 11 月、実施回数：13 回、受講者：347 人）

・高知市内の商店街で、花や緑のストレス軽減効果や認知機能の改善効果を説明しながら福祉園芸体験を実施した。（平成 28 年 11 月 20 日、受講者：30 人）

②取組による成果

・県内小学生に花への興味や親しみを持つ機会を提供し、身近に花を感じてもらうことで家庭でも花を楽しむきっかけづくりができた。

・花の「癒し」効果を体感してもらいながら、ストレス軽減効果の高い組み合わせ、元気の出る組み合わせなど、色や香りに興味を持ってもらい、暮らしに花を取り入れるきっかけづくりができた。

高知の花の学習後、
アレンジメントに挑戦

③今後の取組の予定

・平成 29 年度は、花育体験を実施しないが、イベントや展示会等で花に触れる機会を提供し、身近に花を感じて興味を持ってもらう工夫を行っていく。